

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

CLIPPEDIMAGE= JP402269655A

PAT-NO: JP402269655A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 02269655 A

TITLE: BEVERAGE CONTAINER WITH STRAW INSIDE

PUBN-DATE: November 5, 1990

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

TANAKA, ATSUMI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

TANAKA ATSUMI

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP01091677

APPL-DATE: April 11, 1989

INT-CL (IPC): B65D025/02;B65D077/28

ABSTRACT:

PURPOSE: To allow drinking beverage easily under a hygienic condition by a method wherein a straw is enclosed inside a beverage container, and the tip of the straw is protruded outside the beverage container when a tab is pulled open.

CONSTITUTION: To drink a beverage contained in a beverage container, a pull ring 8 is pulled with a finger to peel off a tab 9 in the same manner as usual. Thereby, a tip 13a of a straw 12 is protruded out of an opening 7 when the tab is cut off. In this state, the straw 12 is held with fingers and the tip 13a is put in mouth to drink the beverage D with the container held upright. Therefore, the beverage can be drunk under a hygienic condition without a worry

about the foul container, and moreover, it can be drunk
with the container held
upright but no need to turn face upward.

COPYRIGHT: (C)1990,JPO&Japio

⑯公開特許公報(A)

平2-269655

⑯Int.Cl.⁵B 65 D 25/02
77/28

識別記号

府内整理番号

A

6540-3E
7127-3E

⑯公開 平成2年(1990)11月5日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全8頁)

⑯発明の名称 ストロー入り飲料容器

⑯特 願 平1-91677

⑯出 願 平1(1989)4月11日

⑰発明者 田中 淳美 静岡県静岡市用宗2丁目2-7

⑰出願人 田中 淳美 静岡県静岡市用宗2丁目2-7

⑰代理人 弁理士 東山 喬彦

明細書

1. 発明の名称

ストロー入り飲料容器

2. 特許請求の範囲

飲料物を密閉状態に収納し、飲料物を飲む際に開栓する開口部を有する飲料容器において、前記飲料容器内部にはストローを内接するとともに、前記開口部を開栓することにより、前記ストローの先端部が前記飲料容器の外側に突出状態となることを特徴とするストロー入り飲料容器。

3. 発明の詳細な説明

〈発明の目的〉

〈産業上の利用分野〉

本発明は飲料缶や飲料用紙パックなどの飲料容器に関するものである。

〈発明の背景〉

近年、ベンダーの普及とともに缶飲料が急速に売れ行きを伸ばしている。この背景には缶のもつ保存性、持ち運びの便利性、耐久性等が評

価されているものと考えられる。このような缶飲料を飲むときには、蓋部の一部を開栓してここに直接に口を付けて飲むため、缶の保管方法によっては大変不衛生であり、ハンカチやティッシュペーパーで口を付ける部分を拭く光景も見られるが、このようにしても完全な除菌がなされるわけでもない。また飲用時には上方を仰ぐような姿勢となるが、このような姿勢は必ずしも他人から見て好ましいものとは言えず、特に女性にとってはこのような姿勢になることを気にして人前で缶飲料を飲むことを控える向きがあった。また缶飲料は持ち運びが便利なことから乗用車内でも好んで飲まれるが運転者が運転中に上方を仰ぐような姿勢で缶飲料を飲むと前方が見えなくなり、運転の妨げとなつて危険である。一方、いわゆる紙パック容器にあっては、その側面にストローを取り付けておき、飲用時にこのストローを取り外して吸飲用として使用するものが市販されている。しかしストローを包装袋から取り出して容器に挿入するとい

う手間がかかり、利便性の面で充分ではない。またその一方において、このようなストローによる飲用手法を缶飲料に適用すれば、前述の不都合の解消はされるものの、ベンダーによる販売形態に適した包装形態の相違に起因して紙パックの手法はそのまま踏襲できず、飲料缶には未だこのようなストロー付のものは開発されていない。

(開発を試みた技術的事項)

本発明はこのような背景に鑑みなされたものであって、ストローを容器外に見えさせておき、使用時にこれを取り外して使用するという既成概念を完全に覆し、いわば常識外であった容器内にストローを内設するとともに、開口部の開栓に伴いストローの端が容器の外に突出するようにしてことにより開口部を開けるだけでストローを口にでき、飲用時に容器の汚染を心配せずに衛生的に飲め、更に上方を仰ぐようにしなくても飲料缶を立てたままの状態で飲むことのできる新規な容器の開発を試みたものである。

以下本発明を図示の実施例に基づいて具体的に説明する。符号1は本発明を適用するストロー入り飲料容器であって、このものはいわゆるブルオーブンタイプの飲料缶で継長円筒状の缶胴部2と蓋部3とから成る飲料容器1a内にストローを内設したものである。缶胴部2は、例えばアルミ板またはブリキ板を絞りプレスすることにより、中空円筒状の側部4と、この側部4の下部を塞ぐ底部5とを一体的に形成して成るものである。そしてこの缶胴部2の上縁には、缶胴部2の開放部分を覆うようにして蓋部3がその周縁を巻き締められて取り付けられる。この蓋部3はその周縁に巻締部6を形成するとともに、巻締部6によって囲まれた内側に開口部7とブルリング8とを具えたほぼ円盤状のものである。この開口部7は蓋部3の中心から巻締部6に向かって広がるような扇形状に形成されるものであって、この部分は開缶前は溝7aによって区切られたりップ片9により塞がれた状態になっている。尚、本発明たるストロー入り

(発明の構成)

(目的達成の手段)

即ち本発明たるストロー入り飲料容器は、飲料物を密閉状態に収納し、飲料物を飲む際に開栓する開口部を有する飲料容器において、前記飲料容器内部にはストローを内接するとともに、前記開口部を開栓することにより、前記ストローの先端部が前記飲料容器の外側に突出状態となることを特徴として成るものであり、もって前記目的を達成しようとするものである。

(発明の作用)

本発明にあっては、飲料容器内部にストローを内設し、開口部を開栓することによりストローの先端部が飲料容器の外側に突出状態となるから、従来の飲料缶と同様な方法で開口部を開栓するだけで、何らこれ以上の手を加えることなしに、簡便に衛生的にしかも不自然な姿勢をせず、あらかじめ内設されているストローを使用して飲料物を飲むことができる。

(実施例)

飲料容器1は開口部7に口を付けて飲むものではないから、このリップ片9を区切る溝7aは必ずしもリップ片9の全周を囲むように形成する必要はなく、第3図に示すように例えば巻締部6に最も近い部分において溝7aが形成されないものであってもよい。因みにこのようにリップ片9の回りの一部の溝7aが形成されない場合には、開口部7を開栓した際にリップ片9が蓋部3から切り離されることなく、リップ片9の不心得な投げ捨てが解消される。更に開口部7は第4図に示すように蓋部3の中央部に設けてもよいし、その形状は第5図に示すように四角形、円形等であってもよい。即ち本発明たるストロー入り飲料容器1にあってはストローで飲料物Dを飲むものであるから、要は開口部7の位置と形状は、後述するような缶に内設されたストロー12の先端部が開栓時に突出状態となることができるものであればよい。次にリップ片9の裏面には第1、2図に示すようにストロー12の屈曲部13が一例として接着剤Cによ

り接着されて、ストロー12が飲料容器1 a 内に内設された状態となっている。尚、ストロー12を飲料容器1 a 内に内設する方法としては、接着剤による方法のほかにも第6図に示すように後述するリベット部10に似たリベット状の係止部14をリップ片9の裏側に形成し、この係止部14に針金状の係止リング14 a を係止させて、この係止リング14 a の中にストロー12における屈曲部13を係止させる方法がある。また係止リング14 a は第7図(a)に示すように帯状のものも使用することができる。更に第7図(b)に示すように蓋部3の裏側に設けた係止板14 b に蓋部3の表側に貫くようリベット部10を形成し、このリベット部10にアルリング8をかしめるとともに、係止板14 b の他端に形成した係止リング14 a の中にストロー12における屈曲部13を係止させてストロー12を飲料容器1 a 内に内設させてもよい。尚、ストロー12を内設するにあたっては、必ずしもストロー12がリップ片9に係止したり接着したりするなど一体化されて

以上のような構造を有するストロー入り飲料容器1を使用するに際しては、第8図に示すように通常の飲料缶を飲むときの要領でアルリング8に指先を掛けて手前側に引いてリップ片9を切り取るようにする。このようにすればストロー12の先端部13 a がリップ片9の切り取りとともに開口部7から突出状態となる。このような状態で飲料容器1 a を立てたまま、ストロー12を支えてその先端部13 a をくわえて飲料物Dを飲む。

次に本発明たるストロー入り飲料容器1の第二の実施例について説明する。第二の実施例は第一の実施例において開口部7の形状を変えたものである。即ち第9図に示すように開口部7が巻締部6に近い位置から蓋部3の中央部にかけて広がった扇状に形成されるとともに、リベット部10が開口部7の巻締部6寄りに設けられていて、そこからリップ片9に重なるようにして蓋部3の中央部に向かってアルリング8が設けられる。

いる必要はない。つまりストロー12の先端部13 a に対し常に上方への弾性復帰傾向を与えておくとともに、その復帰傾向が規制されるようにして開口部7の内側に圧接状態に収納しておき、開口部7を開けたときにストロー12の自然状態への復帰により先端部13 a が突出状態になるようになることもできる。勿論、内設されるストロー12は長期間飲料物に浸漬しても変質せず、また飲料物中に有害な物質を溶出せず、更に加熱による殺菌工程を考慮して熱が加わっても変形しない材質を選定する。またその形状は缶内への収まり状態及びリップ片9との接合状態を考慮すれば、先端部13 a 近くに屈曲部13を有しているものが好ましい。またストロー12の長さは缶内での収まり状態と缶の高さに応じて適宜の高さのものを使用する。次に蓋部3の中心には突起状のリベット部10が形成されており、このリベット部10にはアルリング8が開口部7と反対方向に向いてかしめられることにより蓋部3に固定される。

このようなストロー入り飲料容器1を使用するに際しては、第10図に示すようにアルリング8に指を掛けて一旦アルリング8を巻締部6側に起こした後、今度は逆に蓋部3の中央部に向かうようにしてリップ片9を切り取ってゆく。このようにすればストロー12の先端部13 a がちょうど巻締部6の外側へ突出状態となるから、ストロー12の位置を直さなくともそのままの状態で飲料物Dを飲むことができる。

更に本発明たるストロー入り飲料容器1は缶飲料のほかに例えば紙製容器、ガラス製容器など種々の飲料容器に応用することができる。その一例として紙容器への応用例を示すと、第11図に示すように牛乳などを入れて販売されている紙パックのストロー差込口をやや縦長状にして開口部7とし、この開口部7を塞ぐシール15にストロー12の屈曲部13を一例として接着剤Gで接着して、ストロー12が飲料容器1 a に内設されるようにする。

このようなストロー入り飲料容器1を使用す

る場合には、シール15を飲料容器1 aから剥がし取ることによりストロー12の先端部13 aが飲料容器1 aの外側に突出状態になり、この状態でストロー12を使用して飲料物Dを飲む。尚ガラス製容器についても缶、紙製容器と同様にしてストローを内蔵した容器とすることができます。

《発明の効果》

本発明にあっては飲料容器1 a内部にストロー12が内蔵されているから、上方を仰ぐような姿勢をしなくても缶を立てたままの状態で飲料物Dを飲むことができる。従って不作法にならずに缶飲料を飲むことができ、更に車内などの狭い場所でも飲みやすいものとなる。

また従来の缶と同様な開栓操作をするだけで、内蔵されたストロー12が缶の外側に突出状態になる。従って従来からあるようなストローが容器側面に付いているものと異なり、ストローを容器から外して容器に差し込む操作をしなくても、開栓操作だけでストロー12を使用して飲料物Dを飲むことができる。

1 ; ストロー入り飲料容器

1 a ; 飲料容器

2 ; 缶胴部

3 ; 蓋部

4 ; 側部

5 ; 底部

6 ; 卷錦部

7 ; 開口部

7 a ; 溝

8 ; プルリング

9 ; リップ片

10 ; リベット部

12 ; ストロー

13 ; 異曲部

13 a ; 先端部

14 ; 係止部

14 a ; 係止リング

14 b ; 係止板

15 ; シール

更にまたストロー12が缶内に収まっているから、ストローが空気中に浮遊している間に汚染されることはなく、またベンダーで販売する場合にも何らの支障がない。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明たるストロー入り飲料容器の使用状態を示す一部破断斜視図、第2図は同上面の断面図、第3図は溝がリップ片の一部に形成されていない場合の開栓時の状態を示す斜視図、第4図は開口部が蓋部の中央部に設けられた状態を示す平面図、第5図は種々の開口部の形状を示す平面図、第6図はストローの内蔵方法を示す断面図、第7図はストローの内蔵方法の他の実施例を示す断面図、第8図は開口部を開けたときのストローの状態を示す説明図、第9図は本発明たるストロー入り飲料容器の他の実施例を示す斜視図、第10図は他の実施例の開口部を開けたときのストローの状態を示す説明図、第11図は飲料容器を紙パックとした実施例を示す斜視図である。

D ; 飲料物

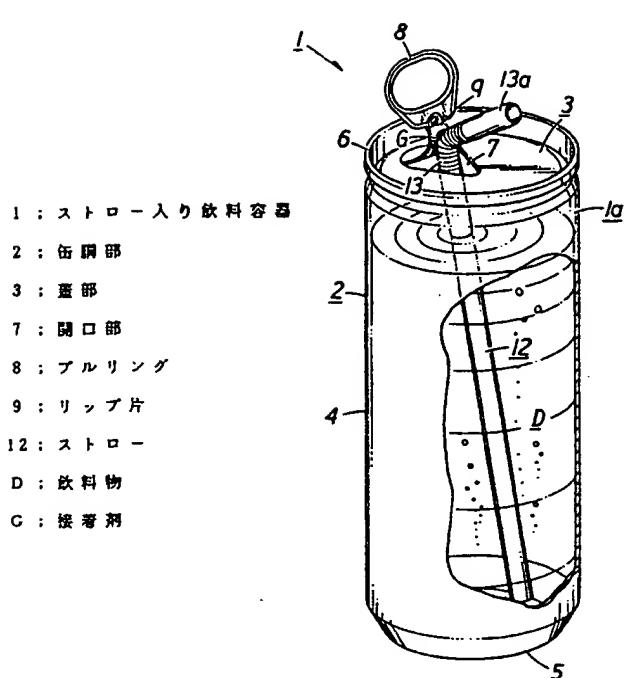
G ; 接着剤

出願人 田中淳美

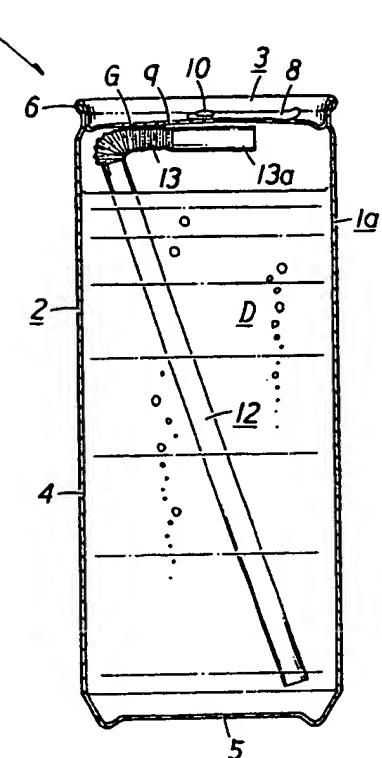
代理人 東山喬



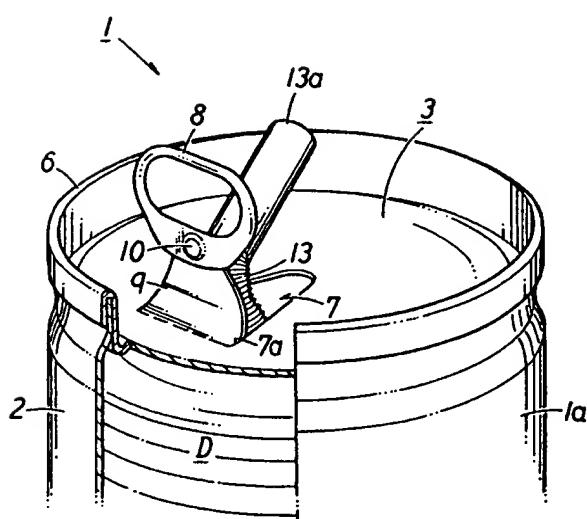
第1図



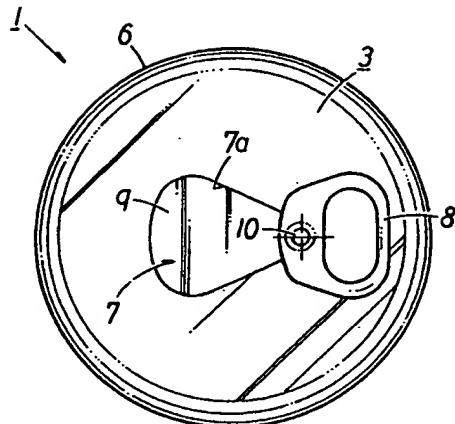
第2図



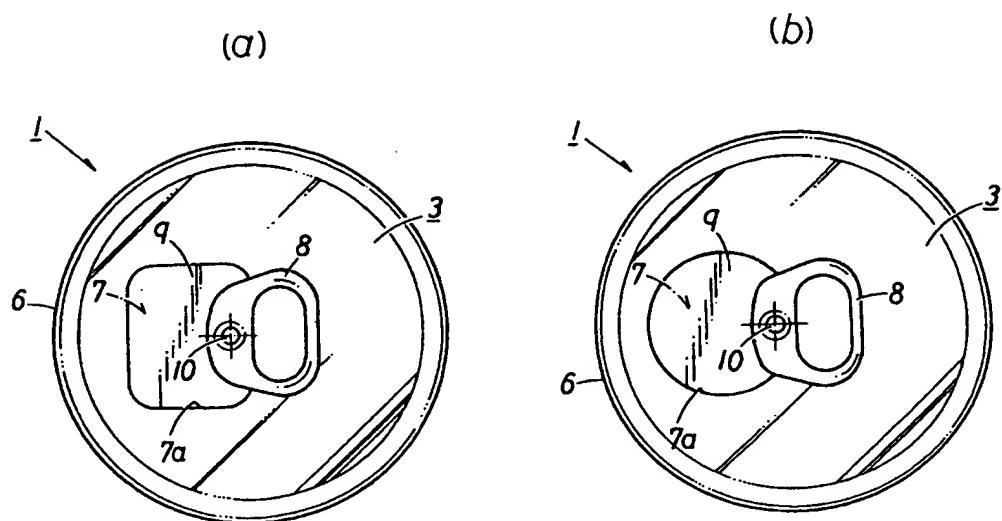
第3図



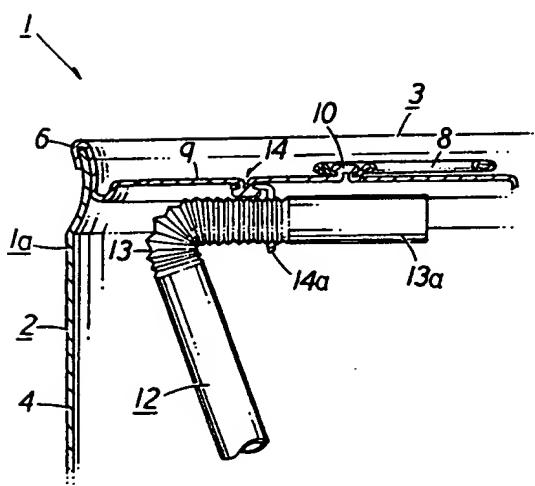
第4図



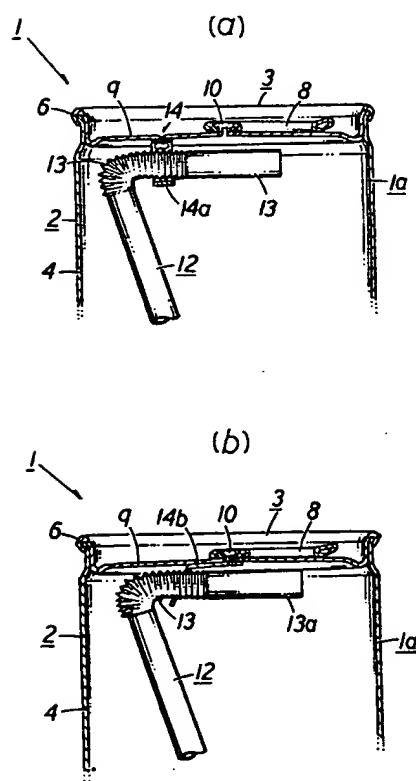
第5図



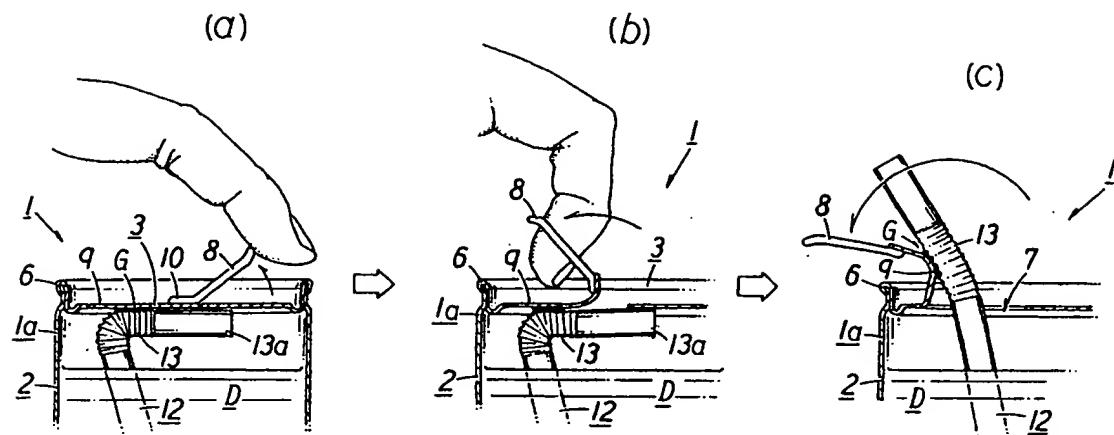
第6図



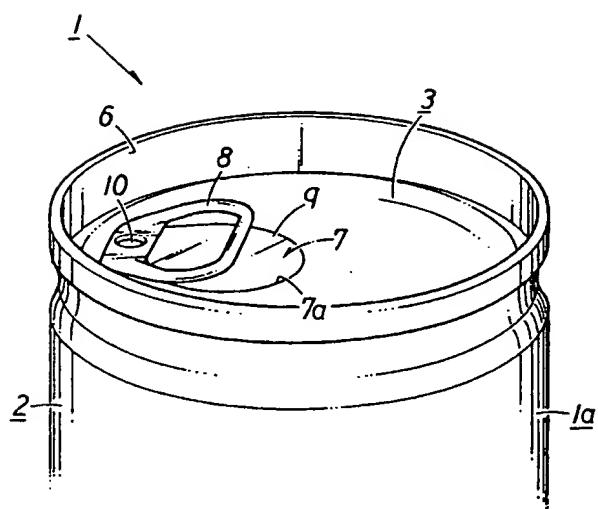
第7図



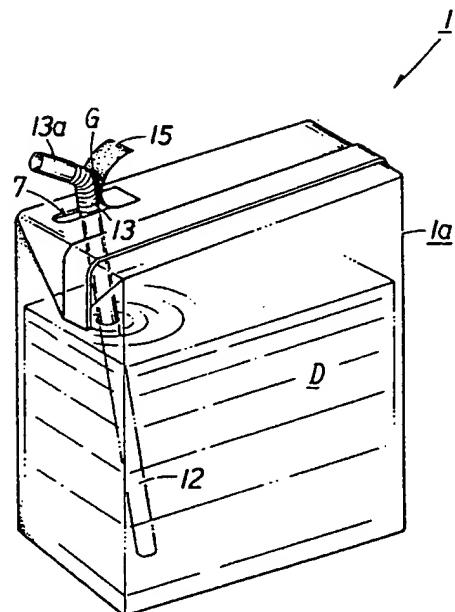
第8図



第9図



第11図



第10図

